

2日目 10月30日土

14:40 ~ 17:50

●鬼太鼓等地元芸能プログラム



14:40 解説「佐渡の農と能」 解説 NPO法人佐渡芸能伝承機構 松田 祐樹 氏

能・民謡 披露

15:00 袴能「猩々」 楽謡游舞の会

楽謡游舞の会は、宝生流師範祝忠生氏主宰の能楽愛好者の会です。今回は面・装束を付けない「袴能」での披露となります。シテの動きが分かりやすいため通常の舞台とは異なる観点から能を楽しんでいただけます。

民謡「佐渡おけさ」「山田はんや」「そーめんさん」「やっとかせ」 山田やまびこ会

山田やまびこ会は、赤泊山田集落で継承されてきた三つ物と呼ばれる「山田はんや」「そーめんさん」「やっとかせ」を主な演目とする民謡団体です。今回はその三つ物に加え「佐渡おけさ」を披露します。

..... 休 憩

鬼太鼓 披露

16:15 御太鼓（一足型鬼太鼓） 南片辺青年部

南片辺の太鼓には「小木太鼓」「昔太鼓」「河原太鼓」「総太鼓」の4種類の演目があり、「昔太鼓」「総太鼓」は片足を上げて打つ一足型鬼太鼓の特徴をよく表しています。



御太鼓（一足型鬼太鼓）

豆まき（豆まき型鬼太鼓） 西野豆まき保存会

西野の豆まきに登場する豆まきの翁は右手に升、左手になすを持ち五穀豊穡を願って舞います。足を上げ跳ねる豆まきの翁や力の限りたたき打ち手の太鼓が見どころです。



豆まき（豆まき型鬼太鼓）

鬼太鼓（前浜型鬼太鼓） 岩首余興部

岩首では鬼太鼓・大獅子の芸能を継承しています。また、佐渡を代表する岩首昇竜棚田があり、保全活動も盛んに行われています。



鬼太鼓（前浜型鬼太鼓）

鬼舞（花笠型鬼太鼓）・小鹿舞 赤玉文化財保存会

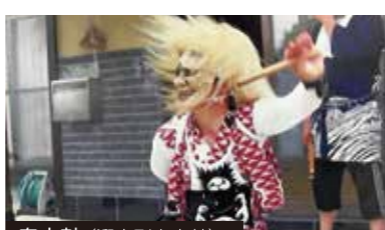
花笠型鬼太鼓は「花笠踊り」の演目の一つとして演じられる鬼太鼓で、佐渡では2か所で継承されています。赤玉には「花笠踊り」「鬼舞」「小鹿舞」の3つの演目があり今回は「鬼舞」「小鹿舞」の披露となります。



鬼舞（花笠型鬼太鼓）

鬼太鼓（潟上型鬼太鼓） 潟上誠心会

潟上型鬼太鼓は、この新穂潟上から始まり佐渡に広まってきました。潟上型鬼太鼓は田園地帯である国中地区を中心に最も多くの集落で継承されています。



鬼太鼓（潟上型鬼太鼓）

17:50 終了

※上演時刻は、進行の都合により変更の場合があります。あらかじめご了承ください。

GIAHS認定10周年 記念フォーラム in 佐渡



トキと共生する佐渡の里山から これからの日本農業への提言



会 期

令和3年 10月29日金 ~ 31日日

会 場

アミューズメント佐渡（佐渡市中原 234-1）

主催 ■ 佐渡GIAHS認定10周年記念フォーラム実行委員会, 佐渡市

共催 ■ 環境省, 新潟県, 石川県

後援 ■ 農林水産省, 国際連合食糧農業機関 駐日連絡事務所, 国連大学IASいしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット, 公益財団法人地球環境戦略研究機関, 新潟大学, コープデリ生活協同組合連合会, 生活協同組合コープにいがた, 生活協同組合コープクルコ, 佐渡農業協同組合, 羽茂農業協同組合, 佐渡市教育委員会, 佐渡市農業委員会, 佐渡土地改良協会, 一般社団法人佐渡生きもの語り研究所, 一般社団法人佐渡観光交流機構, 一般社団法人佐渡を世界遺産にする会, NPO法人トキとき応援団, 佐渡トキの田んぼを守る会, トキガイド連絡協議会, 佐渡とき保護会, 佐渡ジオパーク推進協議会, 朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会, 佐渡棚田協議会, 人・トキの共生の島づくり協議会

開催日程

令和3年10月29日金

時間	行事内容	場所(会場)
14:00～14:30	●オープニング 鼓童公演	アミューズメント佐渡 大ホール
14:30～14:50	●開会式	アミューズメント佐渡 大ホール
15:00～16:00	●記念講演 「トキ野生復帰の意義とGIAHS」	アミューズメント佐渡 大ホール
16:05～17:00	●事例発表 「トキを学ぶ、トキから学ぶ、行谷小学校の子どもたち」 「トキの餌場と生きもの育む 地域の取組」	アミューズメント佐渡 大ホール

令和3年10月30日土

時間	行事内容	場所(会場)
6:00	●特別プログラム(希望者のみ) 早朝トキモニターツアー	
9:00～9:50	●基調講演 「日本の持続可能な農業とは ～佐渡 GIAHS の農村文化から考える～」	アミューズメント佐渡 大ホール
10:00～12:00	●パネルディスカッション	アミューズメント佐渡 大ホール
13:00～14:30	●分科会	
	・第1分科会 佐渡における持続可能な農業とは	アミューズメント佐渡 大ホール
	・第2分科会 多様な生きものを育む佐渡の農地の今、そしてこれから	アミューズメント佐渡 小ホール
	・第3分科会 農業が育んだ地域社会の営みと文化・歴史	アミューズメント佐渡 展示室
	●里山未来ユースサミット(オンライン中継) 農村の未来の可能性を次世代と共に考え、切り拓いていくために	アミューズメント佐渡 文化情報センター
14:40～17:50	●鬼太鼓等地元芸能プログラム	アミューズメント佐渡 大ホール
18:00～18:30	●閉会式	アミューズメント佐渡 大ホール

令和3年10月31日日

時間	行事内容
8:30～	●エクスカーション ～佐渡 GIAHS を形成したジオパークと佐渡金銀山 そして農村の営み～

令和3年10月29日金～10月30日土

時間	会場内展示	場所(会場)
29日 14:00～ 30日 ～18:30	●ポスター展示	アミューズメント佐渡 ホワイエ

歓迎のごあいさつ



佐渡 GIAHS 認定10周年記念フォーラム実行委員会

委員長(佐渡市長) わたなべりゅうご 渡辺竜五

「GIAHS認定10周年記念フォーラムin佐渡」を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。平成23年6月に、本市が国連食糧農業機関(FAO)から、「トキと共生する佐渡の里山」として、石川県能登地域の「能登の里山里海」と共に国内初となる世界農業遺産(GIAHS)に認定されました。このたび、認定10周年を記念いたしまして本フォーラムが開催できますことは、関係者をはじめ多くの皆様のご努力やご支援の賜物であり、深く感謝申し上げますと共に、本日まで参加いただきました皆様には、心より歓迎いたします。

GIAHS認定後のこれまでの10年間は、人口減や食の多様化等による米消費量の減少、農業従事者の担い手の不足や高齢化の進展等により、農業を取り巻く情勢は年々厳しくなっております。農業の衰退は、農村コミュニティの活力の低下や持続的な農村社会の崩壊、生物多様性、里山、自然が持つ防災機能の喪失など、地域の消滅につながりかねない喫緊の課題であると考えております。

一方、本市が世界農業遺産に認定された大きな要素としましては、世界に誇れる多様な生きものを育む里山農業や経済との両立を目指した取組が挙げられます。本フォーラムにおいては、「生きものを育む農法」と「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」、また農村コミュニティに由来する多様な伝統芸能など、継承し続けている遺産について、全国の事例も含めながら、農業、農村そして地域の持続的発展に向けた様々な議論の展開を期待しているところです。

加えて、この10年間の日本と佐渡の農業の歩みを振り返り、持続可能な農業体制、農業と生物多様性の関わり、農文化と歴史、また若者が考える農村の未来像の4つの分野から、次世代へ継承すべき持続可能な日本型農業遺産システムについて皆様と意見を交わしながら、今後の佐渡と日本の農業が進むべき方向を総括し、国内外に発信していく新たなスタートを創設していきたいと考えています。

最後に、GIAHS認定10周年記念フォーラムin佐渡が、皆様の英知が結集されました有意義なフォーラムとなることを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



● 記念講演

テーマ 「トキ野生復帰の意義と GIAHS」



講師 環境省 環境事務次官
なかい とくたろう
中井 徳太郎 氏

東京大学法学部卒業。大蔵省入省後、主計局主査などを経て、富山県庁へ出向。日本海学の確立・普及に携わる。
その後、財務省主計局主計官などを経て、東日本大震災後の2011年7月の異動で環境省に。総合環境政策統括官などを経て、2020年7月から現職。

● 事例発表

テーマ トキを学ぶ、トキから学ぶ、行谷小学校の子どもたち

「日本一のトキの学校」として取り組んできたこれまでの活動と今後の展望を発表します。



発表者 佐渡市立行谷小学校
ぎょうや

新穂地域にある「日本一のトキの学校」。佐渡での野生復帰と、トキとの共生について学び、伝える活動を20年以上続ける。また、トキについて学んだ子どもたちが、「トキ解説員」として、修学旅行で訪れる市外の小学生や観光客などに解説活動を行っている。

● 事例発表

テーマ トキの餌場と生きもの育む 地域の取組

トキの野生復帰の絶対条件である餌場環境整備について発表します。



発表者 トキの水辺づくり協議会 会長
いたがき とおる
板垣 徹 氏

「潟上水辺の会」でピオトープ整備や子どもたちのピオトープづくり、ホタル保護など活動。また、河川の自然再生事業を契機とした「トキの水辺づくり協議会」や、官・民・研究者がトキ野生復帰を協議する「人・トキの共生の島づくり協議会」の課題に取り組む。



発表者 生椿の自然を守る会 代表
たかの たけし
高野 毅 氏

かつて野生のトキの棲息地だった生椿で生まれ育つ。鳥獣保護員として、またトキ保護センターの飼育員としてトキの保護・飼育に当たった亡父の遺志を継ぎ、生椿の棚田を守りピオトープを整備し、子どもたちの体験学習を受け入れながら、トキが再びこの地を舞う時のために活動。

● 基調講演

テーマ 「日本の持続可能な農業とは ～佐渡 GIAHS の農村文化から考える～」



講師 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 理事長
世界農業遺産等専門家会議 委員長
たけうち かずひこ
武内 和彦 氏

地球環境戦略研究機関理事長、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授。専門はサステナビリティ学。
日本政府と国連大が推進する SATOYAMA イニシアティブや国連食糧農業機関 (FAO) が認定する世界農業遺産 (GIAHS) にも深く関与している。

● パネルディスカッション



コーディネーター 農業ジャーナリスト
こたに あゆみ 氏

兵庫県尼崎市生まれ。石川テレビ放送アナウンサーを経て、2003年からフリー。食や畜産番組リポーターとして全国の農業を取材。誰もが自分らしい生き方ができる、持続可能な地域と農業をテーマに取材・発信中。農林水産省/世界農業遺産等専門家会議委員ほか。



パネリスト
(公財)地球環境戦略研究機関
たけうち かずひこ
理事長 武内 和彦 氏
基調講演に続き、パネルディスカッションにも登壇します。



パネリスト
珠洲市長
いずみや ますひろ
泉谷 満寿裕 氏

早稲田大学政治経済学部卒業後、野村證券(株)勤務を経て、2006年に珠洲市長に就任。現在4期目。



パネリスト
大崎市世界農業遺産推進課
たかはし なおき
課長 高橋 直樹 氏

宮城県大崎地域の世界農業遺産認定申請及び認定後の保全計画推進業務に従事。2020年4月から現職。



パネリスト
(株)佐渡相田ライスファーム
あいだ ただあき
代表取締役 相田 忠明 氏

独自ブランド「佐渡スーパーコシヒカリ」を中心に、減農薬と環境保全を意識した生物多様性の米づくりに取り組む。



パネリスト
尾畑酒造(株) 専務取締役
おばた るみこ
尾畑 留美子 氏

「真野鶴」五代目蔵元。廃校再生の学校蔵で酒造りに取り組む。The Japan Times社の SATOYAMA 大賞受賞。



パネリスト
佐渡市長
わたなべ りゅうご
渡辺 竜五 氏

佐渡市農林水産課係長時代、佐渡米の再起を図り「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を開始。2020年から現職。

分科会

●第1分科会

テーマ 佐渡における持続可能な農業とは

高齢化社会に直面している佐渡において、持続可能な農業のあり方とは何かをディスカッションします。



座長 新潟食料農業大学 教授
たけもと としひこ
武本 俊彦 氏

1976年農林省に入省。ウルグアイラウンド農業交渉、食糧法廃止・食糧法制定、BSE問題への対応等の後、農林水産政策研究所長を経て2013年に退官。食と農の政策アナリスト。環境エネルギー政策研究所シニア・フェロー。野村アグリプランニング&アドバイザー顧問。



パネリスト
佐渡農業協同組合
まつい かずゆき
常務理事 松井 和幸 氏

1991年に佐渡農業協同組合に入組、営農指導員、担い手育成を担当。2019年から常務理事（経済担当）。



パネリスト
羽茂農業協同組合
わたなべ まさひこ
営農課長 渡辺 昌彦 氏

1991年に羽茂農業協同組合に入組、営農課で水稻、柿担当等を経て現在に至る。



パネリスト
コープデリ生活協同組合連合会
いのうえ ゆみ
組合員理事 井上 優美 氏

生活協同組合コープにいがた組合員理事兼務。組合員の声や関心事から、くらしの願いを実現出来るよう活動。



パネリスト
佐渡市農業研修生
ともな とも
伴 朋 氏

東京都出身。夫と娘と2021年に佐渡ヶ島へ移住。現在、佐渡市羽茂地域で農業研修中。

●第2分科会

テーマ 多様な生きものを育む佐渡の農地の今、そしてこれから

トキをはじめとした多様な生きものを育む佐渡の農業が、これまで行ってきたことと、今後に向けた課題についてディスカッションします。



座長 新潟大学 教授
せきじま つねお
関島 恒夫 氏

東京都出身。1993年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了。博士（農学）。(財)KAST・近藤「冬眠制御」プロジェクト研究員を経て、1998年新潟大学大学院自然科学研究科助手、2016年から新潟大学農学部教授。



パネリスト
(有)齋藤農園
さいとう しんいちろう
代表 齋藤 真一郎 氏

佐渡出身。水稻、果樹、ハウスイチゴなどを生産しながら、トキや生きものと共生する農業に取り組む。



パネリスト
長野県環境保全研究所
くろえ みさこ
研究員 黒江 美紗子 氏

山形県出身。休耕とカエルの関係（秋田県）や、クマ・シカ・カモシカなど野生動物（長野県・現職）を研究。



パネリスト
環境省関東地方環境事務所
佐渡自然保護官事務所
さわぐり ひろあき
首席自然保護官 澤栗 浩明 氏

新潟県出身。2004年環境省入省。釧路自然環境事務所、裏磐梯自然保護官事務所等を経て2019年から現職。

分科会

●第3分科会

テーマ 農業が育んだ地域社会の営みと文化・歴史

農業が育んできた地域固有の歴史や文化を継承していくために、何が必要なのかをディスカッションします。



座長 新潟大学 名誉教授
いけだ てつお
池田 哲夫 氏

佐渡出身。旧両津市郷土博物館学芸員を経て、1998年新潟大学人文学部助教授、2005年教授。2016年名誉教授。博士（文学）。学芸員当時から佐渡の民俗文化に関する研究に携わり、多くの著書・論文を発表している。



パネリスト
神奈川大学国際日本学部
歴史民俗学科
やすむら さとる
教授 安室 知 氏

専門は民俗学（環境論、生業論）。日本を中心に東アジアの水田文化についてフィールドワークを続けている。



パネリスト
(公財)鼓童文化財団
すがの あつし
専務理事 菅野 敦司 氏

東京都出身。1982年より鼓童に参加。国際芸術祭「アース・セレブレーション」総合プロデューサー。



パネリスト
(一財)佐渡文化財団
やぶた とおる
理事 藪田 亨 氏

佐渡で唯一、村歌舞伎が残っている片野尾集落の出身。農業などに携わる。

●里山未来ユースサミット

テーマ 農村の未来の可能性を次世代と共に考え、切り拓いていくために

若者が住み続けたいと思う農村の未来のために、学生が考えたアイデアを発表します。

座長 新潟大学 准教授
とよだ みつよ
豊田 光世 氏

アイデア発表者 佐渡市内高校生、新潟県内大学生
プレゼン発表者 GIAHS認定地の学生

●あいぽーと佐渡会場の様子の中継／ライブビューイング形式

第1部 未来をひらくアイデアを探求する

佐渡島内の高校生と新潟県内の大学生による「ずっと暮らし続けたいと思う農村の未来」をつくるためのアイデア発表会。

第2部 未来を創造するアクション

プレゼンテーション：GIAHS認定地で展開する、若者のアクション

オープングダイアログ：共に考えよう、里山の未来！

